



© William Daniels

足の切断手術を受けた7歳の少年ジェリー。理学療法士より義足をつけられるようにするためのリハビリ訓練について、母親とともに説明を受けている。(ハイチの首都ポルトープランスにて)

**国境なき医師団の
医療・人道援助活動は、
皆様からの寄付により
支えられています。**

株式会社 東海セーフティ 御中

このたびは国境なき医師団に寄付をしていただき、誠にありがとうございます。

国境なき医師団では、寄付者の方々にニュースレター「REACT(リアクト)」をお届けしております。「REACT」では、国境なき医師団の活動対象となっている国や地域、あるいは問題の中でも特に緊急性が高い最優先課題についてお伝えし、その課題に対する私たちの取り組みを報告しています。また、日本から活動現地に派遣されたスタッフの声や、患者となった人びとのストーリーも紹介しています。「REACT」は年数回発行し、6月号と12月号では特集テーマを組む予定です。ご一読いただけましたら幸いです。

今号の「REACT」は、ハイチについてお伝えします。1月にハイチを襲った大地震は日本でも連日報道され、国境なき医師団の名前がたびたび登場したのを記憶されている方も多いと存じます。実際に、国境なき医師団は最も早く緊急援助活動を開始できた団体でした。その理由は私たちが地震発生当時すでにその場にいた事にあります。ハイチは地震前から政情不安やハリケーンなどの度重なる自然災害に苦しめられてきた、中南米の最貧国です。慢性的に医療が不足しているこの国で、国境なき医師団は人びとの命を救うため、1991年から首都ポルトープランスで活動してきました。地震から数ヶ月がたち、援助活動は第二段階に入ったと言えます。しかし、被災地の苦しみは地震がおさまった後も止むことはありません。もともと貧しく命の危機にさらされていた人びとは、避難生活の中でこれからは術後ケアやリハビリの痛みと闘い、心の傷まで乗り越えていかなければならないのです。国境なき医師団のハイチでの援助活動はまだまだ続きます。

国境なき医師団の活動は皆様からの寄付により支えられています。医療の不足した国々で危機に瀕した人びとを救うための医療・人道援助活動に、どうぞこれからもご協力ください。宜しくお願い申し上げます。

2010年4月

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
事務局長
エリック・ウアネス

